

日本における夢研究の展望 —臨床心理学と精神医学分野を中心に—

名島潤慈*

A review of dream research in Japan: Focusing on the fields of clinical psychology and psychiatry

Junji NAJIMA

I はじめに

夢は日本を含む諸国の神話に、インド・中国・日本の仏教典籍にも現れ（藤堂, 2003を参照）、さまざまな芸術作品にも描写されてきた。夢文化は人間の精神生活を豊かにする。

筆者（2025）は先に夢を研究対象とした計37の博士論文の概略を述べ、さらに、いまだ博士論文として取り組まれていない事項として、アイヌ民族の夢・宗教者の夢・発達段階と夢・明晰夢・作家と作品の夢の5つを取り上げて諸研究を展望した。本稿では、筆者の専攻の臨床心理学における重要事項を取り上げて展望する。なお、精神科医による夢分析の論文もあるので、取り上げる分野は精神医学も含める。文中、数多くある補足的説明に関しては、論文末に一括するのではなくて、その都度 [] の中に書き入れる。

II 夢・夢分析に関する初期のころの研究

まず事例研究としては、強迫行為・強迫観念の患者に対してエディプス複合が存在していることを説明したところ患者はエディプス複合を内容とする定型夢を見て、その後患者の症状は消失したという症例報告を行った古澤（1929）、レプラ（ハンセン病）恐怖症患者の精神分析治療中に報告された夢を扱ったフロイト派の前田（1956）、発声困難症の女性の夢を対象とした鈴木（1958）、学校恐怖症を対象としたユング派の河合（1967a, 1974）と西村（1969）、Freudの症例ドラの2つの夢を現存在分析的に解釈した三好（1970）、ユング派の観点から大学生の夢分析を行った小川（1972）、中学生男子と大学生女子の2事例を対象とした来談者中心療法の田畑（1977）、境界例の女性を対象としたユング派の織田（1977）、切断された腕の夢を扱ったゲシュタルト療法の倉戸（1977）、20歳の男子大学生（排尿障害）の夢を扱ったラカン派の新宮（1984）がいる。なお、歴史的人物の事例研究として、鎌倉時代の華嚴宗の僧侶である明恵（1173-1232）の夢をユング心理学の観点から分析した『明恵 夢を生きる』（河合, 1987）がある。これは考察の密度が濃く、傑作と言えよう。

夢に関する論考としては、心理学の上野（1914ab）のFreudの夢理論の紹介、対人関係学派の鏞（1968）の夢の形成作業に関する精神分析的仮説の検討、同じく鏞（1970）の心理療法における夢分析の機能、河合（1971）の夢における「コンプレックスの人格化」、東山（1976）のコミュニケーション理論からの夢の利用がある。

* 山口学芸大学名誉教授

シンポジウムは、日本心理学会第38回大会（1974年10月）で「夢分析の理論と臨床」が開催され（シンポジストは鑪幹八郎・河合隼雄・前田重治・萩野恒一・水島恵一）、第25回日本精神分析学会（1983年10月）では「夢解釈の理論と技法」が開催され、小此木啓吾（フロイトの夢判断）、鑪幹八郎（夢解釈の技法）、山中康裕（ユング学派の夢解釈）、皆川邦直（子どもの夢とその発展）がそれぞれ発表して北山修が討論を行った。

調査研究は、石橋（1917a）の幼稚園児の夢、石橋（1917b）の幼稚園児の夢と尋常小学校1年生の夢、北見（1957, 1958, 1959）と北見・佐藤（1969）による定型夢についての研究があり、書籍は、河合（1967b）の『ユング心理学入門』の中の「夢分析」、鑪（1976, 1979ab, 1998）による夢・夢分析に関する一連の著作、河合・鑪編（1988）の『夢の臨床』がある。

全体的に見ると、夢の分析・解釈に関しては、河合と鑪が特に注力している印象が強い。

Ⅲ 臨床心理学と精神医学分野における重要な事項

1. 夢の中の感情：Hall & Van de Castle（1966）は夢の中の感情（emotion）を怒り、不安・心配、幸せな気持ち、悲しみ、混乱・狼狽の5つに、Maybruck（1989）は怒り、恐怖、苦痛、楽しさと愛の4つに分類し、岡田（2001）は夢の調査研究を行うさいにPlutchikやIzardの分類を参考にして、①嬉しさないし楽しさ、②安堵感、③希望ないし期待感、④幸福感、⑤怒り、⑥悲しみ、⑦恐怖感、⑧あせり、⑨緊張感、⑩不安感、⑪嫌悪感、⑫驚き、⑬羞恥心という13種類の感情項目を用いている。[Hall & Van de Castleの感情の5分類は、武内（1984）、荒木（1996）、的場（1998）らが用いている。]

筆者自身は計14人のクライアントたちの計701個の夢の中の感情を細かく分類して、①幸福感、②興奮、③楽しさ・喜び、④親愛感、⑤安心感・落ち着き、⑥驚き、⑦困惑・混乱、⑧不安・心配、⑨悲しみ、⑩怒り、⑪恐怖、⑫不快・嫌悪、⑬焦り・緊張、⑭罪悪感、⑮嫉妬・羨望、⑯劣等感・恥の計16種類の感情に分けた（名島, 2008）。山根ら（2009）は5人の初産婦の妊娠初期・中期・後期の夢にこれら16種類の感情がどのように出現しているかを吟味している。[⑯の「劣等感・恥」は、後に「恥」のみに改めた（名島, 2012）]

吉岡（2023）は大学生・大学院生に対する調査から、過剰適応傾向の強い人は自己抑制的で自分の感情に蓋をしたり感情と向き合ったりすることを避けるが、しかし、彼らは夢の中では、ポジティブな感情もネガティブな感情も強く体験していることを見出している。

吉岡（2025）はまた、夢が感情面に関して果たしている機能について英語圏の雑誌から計23の文献を選出し、①夢は覚醒時の感情的記憶を統合する、②夢は就寝前に体験していた感情の強さを低減させる、③夢は覚醒後の感情的反応性を変化させる、④夢のなかで体験する感情はプライミング効果を有する、⑤夢は現実の脅威に対処するためのシミュレーションを行い、ネガティブな感情を通じて脅威への対処能力を高める、⑥夢の感情は覚醒後の感情的反応性を変化させるとまとめている。[感情面に限らず、夢の持つ認知的・情動的処理機能、自然治癒的機能については河合（2023）が細かく紹介している。]

2. 悲嘆夢：悲嘆夢（grief dream）とは本人にとって大切な人が死んだ後で直接本人の夢に現れるような夢である。大切な人が夢の中に姿を現し本人と会話したりする。もっとも、悲嘆夢の中には災害死や事故死などのシーンの再現といった悪夢の形をとるものもある。

もともと悲嘆夢はWray et al.（2005）が命名、悲嘆夢は夢の中とはいえ、故人との交流を可能にし、覚醒時のモーニングワーク（mourning work: 喪の作業）を促進する機能を果たすという（山本, 2007）。[英語のgriefは死別や離別がもたらす深い悲しみを意味し、mourningは死者に対する悲嘆や哀悼の気持ち、喪に服することなどを意味する。]

死者の中でも特に配偶者やわが子の死は、本人にとっては大変悲痛なものである。梅村（2008）

は配偶者との死別に伴う夢を取り上げ、喪の過程における夢の2つの面、つまり「へだたり」（愛する対象から距離を取ろうとする動き）と「つながり」（愛する対象に近づこうとする動き）という2つの面の同時存在の意義を吟味している。

濱崎・山本（2010）は配偶者や子どもと死に別れたさまざまな遺族の手記（出版されたもの）を検討した結果、悲嘆夢が悲嘆による外傷化を緩和する機能を有していることを強調している。ちなみに山本（2025）は近著の中で、濱崎・山本（2010）でも取り上げた小説家の津島佑子（1947-2016）が見た悲嘆夢の意味と意義を詳細に分析している。[津島は本名が津島里子、太宰治（本名は津島修治）の次女。津島佑子の長男は8歳のとき、お風呂に入浴中、「呼吸の発作」（津島, 1986）で突然死する。]

余談ながら、作家の見た悲嘆夢は新聞・文芸誌・本などに発表されるが、それは読者の目をたえず意識した「作品」と言える。つまり、本人の死後発見された日記の中の悲嘆夢や、カウンセリングでクライアントによって語られる悲嘆夢に比べると、新聞・文芸誌・本などに発表された悲嘆夢は、喪失体験の客体視と種々の表現技法（省略、ぼかし、誇張、比喩、場所や人物の置き換えなど）が投入された結果出来上がった作品であり、実際に本人が見た悲嘆夢そのものではない。ただ、それにしても、津島佑子の『夜の光に追われて』（1986）や『夢の記録』（1988）の中に収載された夢の部分を読むと、喪失の悲しみと苦しみが胸をえぐってくる。彼女は自分が体験したことをひたすら作品化することによって生の苦難を乗り越えていったものと言えよう。[個々の悲嘆夢は個人内・家族内に留まるが、作品化される悲嘆夢は共有化をめざす。]

山本・岡田（2013）は32人の計80個の悲嘆夢の分析から、喪のプロセスにおける「切る機能」と「結ぶ機能」の意義について検討している。また、松本（2025）は、母親が癌で死去した中学生男子との面接においてクライアントが悲嘆夢を含む種々の夢を語るなかで非在の内在化が達成されたことを考察している。

ところで、2024年には日本心理臨床学会第43回大会で「悲嘆夢を語ることの臨床的意義と可能性について—悲嘆夢の活用を通して、一人ひとりの心に寄り添う遺族ケアを目指して」（清水ら, 2024）というシンポジウムが開催されている。遺族ケアにおいて悲嘆夢をどのように臨床的に活用していくかということは、これからの大きな課題となろう。

3. 自然災害と夢：自然災害には種々あるが、過去の大震災として、M7.9の関東大震災（1923.9.1）（死者・行方不明者は推定105,000人）、M7.3の阪神・淡路大震災（1995.1.17）（6,434人死亡、3人行方不明）、M9.0の東日本大震災（2011.3.11）（消防庁によれば関連死を含む死者は19,782人、行方不明者は2,550人）がある。震災による心の打撃から自然に回復する人もいるが、急性ストレス症（ASD）や心的外傷後ストレス症（PTSD）、うつ病（MDD：大うつ病性障害）、遷延性悲嘆症（PGD）などを発症する人も少なくない。

阪神・淡路大震災に襲われた人々の苦しみについては神戸大学病院の精神科医の安（1996）が詳細に記述している。悪夢に悩まされる震災遺児、悲惨な状態となった遺体の死体検案を手伝った後その情景の夢に悩まされる医師など、さまざまな苦悩が見られる。

高石（1996）は阪神・淡路大震災の約9か月後に神戸市の大学生に夢と心の健康に関する調査を行い、その結果、①震災直後には、特に激震地で被災した者は「揺れる」「もがく」「押し潰される」など体感が前面に出た反復夢と恐怖を体験する、②3～5か月後には、直後からの反復夢に加えて、寂しさやイライラなどの情緒的な反応を特徴とする夢を見る、③9～10か月後には対象喪失の悲哀のプロセスと関連した夢（震災で死去した友人と夢の中で話すなど）を見る。この③に関して高石は、「喪失のトラウマを抱えてしまった学生にとって夢は今後も心の回復を助ける機能を持ち続けるであろう」と述べている。

堀田ら（2021）は東日本大震災の被災者に対して花巻市の病院で医療的支援を行ったが、その

なかで、PTSDや複雑性悲嘆（死別による悲嘆反応が通常よりも強く持続時間も長い）に悩む計5名の被災者にEMDR（眼球運動による脱感作と再処理）を行って著効を得ている。症状的には40歳代女性の不眠や悪夢（誰かに襲われる）、80歳代男性の不眠や悪夢（冷たい手で引っ張られる、黒く変色した恐ろしい祖父の顔）、幻視・幻聴、解離などがあつた。

『私の夢まで、会いに来てくれた』（金菱編, 2018）は、災害社会学専攻の金菱ならびに金菱ゼミの学生たちが東日本大震災で家族や友人をなくした人たちの夢を震災の5～6年後に直接聞き取った貴重な記録である。夢に登場する近親者以外では、「助けてください。動けないんです」という見知らぬ女性の声の夢が印象的である（彼女は夢主がやむをえず見捨てていかなければならなかった女性で、後に死去していたことがわかり、夢主は彼女の位牌が祀られた仏壇にお参りした）。

4. 悪夢：悪夢には、生活場面でのストレスによる特発性悪夢と、急性ストレス症やPTSDに伴って生ずる外傷後性悪夢（トラウマ体験が繰り返される反復性の悪夢）がある。悪夢はまた、ナルコレプシー、うつ病、悪夢症（ND）、全般不安症（GAD）とも縁が深い。[トラウマ体験には、戦争、災害、事故、暴行・傷害、子ども期の逆境体験などが挙げられる。]

一般に、悪夢にさいして夢主は強い不安や恐怖を感じて中途覚醒してしまう。睡眠の中断が続くと、日中の過度の眠気や注意集中力の低下で仕事上のミスが出てくる。悪夢、それも執拗な悪夢は自殺の危険性のサインでもある（Sjöström et al., 2007, 2009を参照）。

悪夢の治療面では、松田（2006）は、27歳の既婚女性（夫の浮気による離婚の危機、悪夢）に対する「夢を媒介とする認知療法（Dream Mediated Cognitive Therapy）」によって悪夢症状の消去や現実の対処能力の向上をなした。また、池田ら（2016）はうつ病を合併したPTSDの14歳少女（入院治療中）の「蛇に追いかけられる」という悪夢に対して、悪夢のストーリーを変えるという心理教育によってよい効果を出した。これは、技法的にはimagery rescriptingになる（大江ら, 2014も参照）。なお、松田・川瀬（2023）では、イメージリハーサルによるイメージ・リ스크ript（高校1年）と明晰夢によるイメージ・リ스크ript（中学3年）を行った2つの事例において効果をみている。[リ스크riptは、通常の夢の場合には悪夢を見て覚醒後に夢のストーリーをよい方向に書き換え、明晰夢の場合には明晰夢のなかで結末をポジティブな方向に向け変えて夢を終了することになる。]

5. 終末期臨床における夢：癌の終末期には種々の身体症状の他、死への不安、抑うつ、孤立感、絶望感、せん妄などがみられる。河野胃腸科外科医院院長の河野博臣はもっぱらユングの分析心理学の観点に立つ主治医として、種々の臨死患者に対して「夢分析的接近法」を行っている（河野, 1977, 1985, 1991）。患者の多くは末期癌に罹患していて、人生の終末期を迎えている。「若い娘が添い寝してくれる夢を見ると元気になる、ライオンが2匹激しく戦い自分もそのなかに引き込まれるといった夢を見ると体が衰弱する（58歳の男性、胃癌の再発、全身衰弱）」「喉から若い男と女が出てきてドアのほうに消える、さびしい気持ちでいっぱい（60歳男性、食道癌）」など、彼らが見た夢についての大変印象的な記述がある。河野は外科医でありつつも人生の統合に対する援助としての夢分析を強調した人であった。

6. 心理療法における夢の利用：心理療法の歴史の初期に夢に注目したのはFreudとJungであるが、2人の見方は異なる（名島, 1991）。Freudにとって夢はある抑圧され排斥された願望の偽装した充足であり、幼児型の夢以外は検閲によって歪曲されているが、Jungにとって夢はそのあるがままの姿が本来の姿で、歪曲はなく、補償的機能を有する。[2人の共通点としては、単独夢よりもシリーズとしての夢を重視する、夢についての夢主からの情報を重視する、夢主の連想が出てこない場合には象徴的夢解釈を行う（Freudはもっぱら性的観点からの解釈、Jungは神話的・宗教的観点からの解釈）。]

積極的に夢を利用する心理療法は、Freudを鼻祖とする精神分析療法（精神分析的な心理療法を含む）、ユング派心理療法、Beckの認知療法、Perlsのゲシュタルト療法、Gendlinのフォーカシングなどである。KlermanやWeissmanらの対人関係療法では夢を特に利用しない。また、Bateman & FonagyのMBT（メンタライゼーションに基づく治療）ないしメンタライジング・アプローチ（上地, 2015を参照）でも基本的に夢を利用しない。Rogersの来談者中心療法では、田畑（1977, 1983, 1984）以外の論文は見当たらないようである。

精神分析は自我心理学派、対象関係論学派、ラカン派、自己心理学派、対人関係学派などに分かれるが、それぞれに夢を利用する（例えば松木・藤山, 2015; 新宮, 1988; 鏑, 1998）。

もっぱら週に4回以上寝椅子・自由連想で行う精神分析療法にしても週に1～3回の対面法・対話形式で行う精神分析的な心理療法にしても、夢を治療的に活用する。ただし、クライン派精神分析家の衣笠（1998）は週に1回などの面接に比べて毎日分析では夢の報告頻度が増すと述べ、対人恐怖の男性患者の毎日分析（週5回、1回50分）の面接経過を提示している。そこでの夢解釈は早期対象関係における内的な状況とその転移関係に焦点がある。

一方、岡野（2025）は週1回の精神分析的な心理療法について、彼女自身の臨床経験から、週1回の頻度では自由連想や無意識的コミュニケーションに基づいた精神療法過程の方がそうでない場合より夢の報告は多くなる、転移関係が治療過程に展開すると夢が頻繁に報告される、象徴機能が十分に機能しない患者の場合には夢の報告は少なくなる、ともあれ現代クライン派対象関係論の夢の理解を治療者が持つことで週1回でも夢を利用した実践が可能になると述べている。ちなみに、皆川（2014）は40代半ばの英国人女性との精神分析的な心理療法（週1回50分、90度対面法）において、初回から夢が多く報告されたのは、皆川の前のセラピストとクライアントとの間で夢が重視されたという可能性を指摘している。

対人関係精神分析の鈴木（2014）は、男性大学院生（対人恐怖）との面接において、クライアントが「買ったばかりの靴を返しに靴屋に行ったら、店員の一人が『それ、盗んだんでしょう』と言う。レシートを持っているのになーと思いつつ店員の迫りに圧倒され、戸惑い焦る」という夢を報告した。これに対して鈴木はクライアントに、「レシートを持っているのになぜ提示しなかったのか」「レシートを提示しなかった理由は」と問いかけた。するとクライアントは、「責められていると感じたときは反論せずに不利益を被ることがある」と述べた。そして、次の回の面接でクライアントは、大学院の同期生と関わりたいがそうできない葛藤について語ったという。

セラピストである鈴木は動きは興味深い。レシートを持っているのに提示しなかったのはあくまでも夢の中のことなので、それだけクライアントの安全保障感（sense of security）（Sullivan, 1954/1986）を不必要に脅かさないですむ。そして、鈴木の問題に対してクライアントは、責められていると感じたときには反論しないで不利益を被るという覚醒時の生活場面でのことを述べている。これも興味深い。

コロンビア大学精神分析センターとホワイト精神分析研究所で訓練を受けた吾妻（2015）は「多元的夢分析」を提唱している。彼によると、Freudは夢が転移-逆転移関係がエナクト（実演）されたものだというふうには考えなかった。夢は分析家と患者の相互交流であり、分析家と患者のあり方を反映する（スーパーヴィジョンとしての夢）。また、「夢とは解離された関係性の場」（Bromberg, 2006）であり、閾値以下に留まっている受け入れがたい知覚を「今-ここ」に登場してもらおう。夢分析は夢主の自己を拡張するプロセスである。

ユング派心理療法では鼻祖のJungがそうであったように、夢を特に重視する。ただし、同じユング派でも、夢の意義づけとなると異なってくる。例えばユング派分析家の広瀬（2006）は、ひどいトラウマを負ったクライアントとの治療経験から、古典的ユング派に対する疑問を提示している。つまり、古典的ユング派は夢の中の迫害者（例えば夢主を夢の中で殺害する残忍な人物）

を意識の刷新のための促進者とみなすが、迫害者はむしろ、自己の経験を破壊し、統合しないことを目的とするのではないか？「死と再生」と言うが、本当に元型は過去の傷を再生できるのか？再生はなく、死の背後にはむしろ、空虚がぽっかりと穴をあけているのではないか？広瀬はこのような疑問を抱き、無理に再結合・再統合を急ぐよりも、解離を始めとする防衛機制を容認し、かつ解離された断片を入れ込む容器を保ちつつ、新たな成長への契機を共に探すということを勧めている。

ところで、ユング派の夢分析では通常、影、コンプレックス、アニマ・アニムス、補償といった観点から夢をみていくが、ユング派分析家のGiegerichのやり方は徹底して夢の中に入り込み、夢を内側からみていく。『ギーゲリッヒ 夢セミナー』（河合編著, 2013）には、大学院生たちが提示したケースの夢の意味・意図をGiegerichが大学院生たちと対話しながら論理的に読み解いていく姿が記されている。Giegerichのやり方は、ユング派分析家のRoeslerの「夢の構造分析」（Konakawa, 2016を参照）と並んで、今後大いに発展しよう。

認知療法では夢を積極的に利用する。もっとも、一時期夢は顧みられなかったが、近年再び注目されるようになってきている（大前, 2005）。夢は例えば、クライアントの非適応的スキーマを同定するのに役立つ。

ゲシュタルト療法では夢を同一化の対象として利用する。例えば、夢主が道路の夢を見たとなると、夢主に夢の中に出てきた道路になってもらう。すると、例えば夢主から、「私は道路だ。いろんな人に踏みつけられたり唾を吐かれたり。まさに私の人生だ！」といった実存的メッセージが夢主から出てきたりする。ゲシュタルト療法を創始したFriedrich Salmon Perlsは臨床的には天才的であったと言えよう（Perls, 1969/1990を参照）。

Gendlin（1986/1988）は夢に対してフォーカシングを行っており、日本でも追試が行われている。その場合、「夢フォーカシング」という言葉が用いられているが（例えば三坂・村山, 1993; 田村, 2002; 樋口, 2005）、ただ、池見ら（2024）が指摘しているように、Gendlin自身は夢フォーカシングといった言葉を特に用いていない。「夢をカラダで感じてみる」「夢のイメージをカラダで生きる」といった感じである。池見ら（2024）が言うように、Gendlinの夢のワークは今後、ボディ・ドリームワークと呼ばれるべきかもしれない。

7. 自閉スペクトラム症と夢：近年、自閉スペクトラム症が注目されているが、彼らの夢はどのようなものなのか。岡田（2016）は自閉スペクトラム者の夢の特徴として、次のことを挙げている。①自閉スペクトラム者は心の中の夢領域は広くない。②睡眠欲に乏しく、安定した睡眠を体験することは少ないため、夢を見ることは少ない。③夢思考の影響を受けながら日中残滓が夢の中に直接現れる。④幼児的状况・現実状況・分析状況という三角空間が狭く平面的で、例えば前日の分析関係は象徴化されず、日中の残滓のように夢の中に直接現れる。⑤防衛的な意味は少なく、簡素かつ断片的でストーリーに乏しい夢が多い。

筆者（2010, 2016, 2019, 2020）はこれまで、オーストラリア生まれの作家・アーティストのDonna Williams（1963-2017）とアメリカ生まれの動物行動学者のTemple Grandin（1947-）を取り上げ、彼らの見た夢の吟味を通して高機能自閉症者の内面に肉薄した。例えばDonna Williamsが青年期までに見た10個の夢（その中の3個は子猫の夢）を分析してみると、彼女が自分の中の「子猫」（自分の感覚と感性のままに生きようとする動物的部分）を殺さずに、それどころか子猫を保護するためのさまざまな安全保障獲得作戦を用いて社会的人間へと成長していったことがよく分かる。「精神錯乱を防ごうとするメカニズムが非常に敏感に働いている場合が自閉症である」という彼女の言葉は味わい深い。

松田ら（2021）は、夢日記法で収集された自閉症スペクトラム障害の大学4年生男子の夢資料に出現した感覚と感情の特性を分類した結果、視覚や聴覚のみならず嗅覚や味覚の体験も多かつ

たこと、いわゆる悪夢はなかったこと、ネガティブな感情（怒り、悲しみ、恐怖など）よりもポジティブな感情（うれしさ、安堵感、幸福感など）の体験が多かったことを見出している。[ポジティブな感情が多かった理由については論文では特に触れられていないが、大学内にある学生相談室など、学生本人をサポートする体制が整っていて、本人の生活環境から来るストレスが少なかったことが挙げられるかもしれない。]

8. 統合失調症（精神分裂病）と夢：「精神分裂病」は2002年に「統合失調症」に変更されたが、本節の論文ではすべて精神分裂病なので、記述の都合上ここではそのまま用いる。

角南（1969）はREM期覚醒法で慢性分裂病者の夢を研究し、慢性分裂病者の夢は正常者の夢に比べて内容のまとまりが悪く、非現実的な内容のものが多く、恐怖・不安などの情動要素を伴ったものが多いことを見出している。織田（1973）もREM期覚醒法で新鮮例分裂病者の夢の分析を行い、分裂病の病期には正常者と比べて、自己に対する他者の敵意、非現実的な内容の夢、自己の存在を脅かす内容の夢、自己の関わる事柄が失敗に終わる夢が多いことを見出している（これらは分裂病の改善時には正常者値に近づいた）。

中井（1974）は、急性分裂病状態と臨界期と寛解期（回復期）の夢について次のようにまとめている。①急性分裂病状態では、夢の二次的加工を前提とする回想夢はほとんど生じない。破瓜型によく見られるが、形をなさないお化けとかつかみどころのないものに追っかけられるといった夢が多い。②臨界期に入ると同時に、夢は自律神経系を巻き込むという意味での悪夢となって、しばしば非常な強度で出現する。③寛解期前期には、再建夢系列が見られる。これは例えば、「枯野のなかを草の芽がないかと探している夢」に始まり、「丘を切り開いて田圃を作っている夢」が続き、「実った水田」「清冽な泉が湧いていて、それを村の各戸に配るべく水路を切り開いている夢」といった一連の流れである。④寛解期後期には、精神活動の身体的対応性は健康者の水準に近づき、季節感も回復する。夢機能も回復して、健康者の水準に近づく。⑤一般に病者は分裂病の発病の時と臨界期と回復期初期に悪夢を見る。ちなみに、病者の幻覚や妄想は一般に夢の中には出てこない(PTSD性の幻聴、つまり心的外傷性の幻聴は夢の中に出てくる)。[以上の中井の所見は病者の状態把握に有効。なお、後に中井（1998）は臨界期を発病時臨界期と回復期臨界期の2つに分けている。]

山中（1984）は精神分裂病の場合、急性期や寛解前期の夢分析の適用は危険で、一般には自発的に報告される夢で、しかも悪夢でないものを受けとめるというpassiveな方法を取るほうがよいようだとして述べている。渡辺（2002）もまた、精神分裂病者の夢は不用意に聴くべきでなく、周到に配慮された強固な治療構造の中で大きく深い治療者という器に抱えられて、神秘的な秘儀として密かに聴かれるべきものであるとアドバイスしている。

小寺（1999）は53歳の妄想型分裂病女性との治療において、最初に彼女の自我を強化した後で夢を導入、7年間に415個の夢が報告される。彼女の夢の中で侵入的な男性像は受容可能なものへと変容し、それとともに妄想症状は縮小している。第35回目面接で報告された「琴が倒れて、そこからきれいな蝶が部屋の中を飛ぶ」という初回夢は大変印象深い。

9. 夢日記：夢日記には作家の島尾敏雄（1948, 1973, 1978）の「夢の中での日常」『記夢誌』『夢日記』、弁護士の正木ひろし（1974）の『夢日記』、漫画家のつげ義春（1977）の「夢日記」、画家の横尾忠則の『夢日記』（1979）、津島佑子の『夢の記録』（1988）などがある。

これら以外、臨床家や心理学者の夢日記もある。まず、精神科医の小沼（1993, 1995）は若い頃に見た夢も含めて計41の夢を吟味・考察し、さらに、そのなかの「浴室で太った蛇に遭遇し、必死で向こうにいる妻に呼びかける」という夢をクライン派精神分析家の衣笠隆幸に送り、夢の中の蛇は破壊的な「結合した両親像」を表すのではないかという衣笠の所見を得ている。[結合両親像（combined parent-figure）は対象関係論の鼻祖であるMelanie Kleinが提示した概念で、

乳児の無意識的幻想を指す。]

次に、心理学者の近藤（1994）は、彼が見た1600を超える夢の中から130篇あまりの夢を選んで種々に分類している。そのさい、島尾や正木の見た夢との比較も行っている。ちなみに近藤は1939～1941年にかけて支那事変の華中戦線に陸軍一等兵として従軍しており、そのときに受けた「精神的外傷」（近藤の言葉）がそれ以後の夢にも現れてくる。近藤が見た夢の5.3%が従軍経験に結びついているという。なお、心理学者の渡辺（2018）は彼が見た99の夢の中から計15の他者変身夢（他人や動物などに変身する夢）を抽出し、フッサールの志向性論に基づく現象学的分析を行っている。

最後に、東京で開業していたクライン派精神分析家の山上千鶴子が彼女のホームページ「精神分析へのいざない」（<https://www.chiz-yamagami.com>）の中に2020年5月5日に掲載した夢日記がある。山上の見る夢や夢についての連想には、ロンドン時代、彼女のスーパーヴァイザーであったDonald Meltzerや、彼女に教育分析を行ったDoreen Weddellが登場する。ポストクライン派の旗手のMeltzerへの信頼と親愛、山上の幼児的な部分にのみ焦点をあてていくWeddellへの強い不満など、読んでいて興味深い。ホームページ中の「タヴィストックからの贈り物」にも彼らについての思い出が記されている。[MeltzerはBickの提唱した附着同一化（adhesive identification）を自閉症の心的世界に適用したり、無意識的思考としての夢に強い関心を示したりした人である。]

夢日記は筆者もつけている。夢は、筆者と関わりのある人々や関わりがあった人々（クライアントも含む）との関係を見直したり、それに伴って過去の自分との関係を見直したり、心身の状態をチェックしたりするのに有益である。特に筆者は年来指定難病を患っているため、老化による衰えと併せて、身体状況の細かいチェックが必要であり、その点、夢は少し大まかではあるが、敏感な感知器となりうる。

10. 逆転移夢：逆転移は当初治療の妨害物とみなされたが、次第に逆転移の持つ治療的価値が認識されるようになった。夢との関連で言えば、逆転移夢を自己吟味したり、逆転移夢の内容をクライアントに述べたりすることで治療上の危機を乗り越えたりするようになった。例えばTauber（1954）は、彼が患者に関する夢を見た後、その夢のことを患者に告げるというやり方を試みている。Jung（1968/1976）もまた、女性患者の夢を見た後彼女に、「夕べ夢のなかで首が痛くなるほどあなたを見上げていました。これは、私があなたを見下していることの補償です」と述べ、それによって、それまで停滞していた治療は進展した。

名島（1978）は、顕在的な境界例水準で機能する自己愛的人格（Kernberg, 1974）の20代の自殺未遂者との面接で名島に向けられた彼女の荒れた言動（セラピストの鈍感さを罵倒したり、自殺を企図したさいにできた重度の火傷痕が痒いと言ってセラピストにかかせたりするなど）や、病棟での非力な患者に対する彼女の無慈悲な行動によって怒りや憎しみ、嫌悪感に襲われるようになったが、彼女に関する5つの夢を見ることによって彼女の中に潜む哀しみにやっと気づくことができ、それによって彼女の言動は落ち着いていった。

三村（1997）は臨床心理士・精神科医などを対象としてクライアントに関してセラピストが見る夢、計42個の夢の意義を調査し、その結果、夢がクライアントーセラピスト関係についての洞察を促す、クライアント理解を促す、セラピストの自己洞察を深める、スーパーヴィジョン的な機能を有するといったことが分かった。

鈴木（2012）は、20代後半の既婚女性（パーソナリティ障害、頻回の自殺企図）との面接で鈴木が見た逆転移夢の治療的意義について検討している。鈴木はクライアントの過剰な投影同一化、頻回の自殺企図、迫害妄想などによって治療者としての機能を失っていくが、鈴木が見た逆転移夢を吟味し、さらに逆転移夢の意味をクライアントに伝達することによって治療的危機を脱

し、それと同時に、クライアントの問題行動や症状は鎮静化している。

11. 能動的夢分析：名島（2003ab, 2012）とNajima（2023）は、夢主自身が夢の意味を発見できるような環境をセラピストが質問という形で積極的に整えてあげるというやり方を能動的夢分析（active dream analysis）と呼んでいる。質問には、夢素材連想質問・全体感想質問・夢ポイント質問・伝達－警告質問、さらに対応性質問・抽象性質問・潜在感情質問・対提示質問・不在者質問・夢関連性質問がある（夢素材連想質問と全体感想質問は数多くのセラピストが通常用いている質問）。潜在感情質問を例にとれば、これは、夢要素の中に象徴的な形で隠されている夢主の感情に焦点を当てる（潜在感情の把握は夢主のパーソナリティを理解するのに重要）。具体的には、さまざまな夢要素の中で最も印象的なものを夢主を選んでもらい、次に例えば「この夢の中では激しく流れ落ちる滝が最も印象的ということですが、この滝を何かの感情や気持ちにたとえたとしたらいかがですか」と質問する（名島, 1998を参照）。なお、セラピストからの介入にはこれらの質問以外、否定的な結末部の利用や焦点の移動がある。

近藤（2002）は、非行少年の調査面接において能動的夢分析の中の感想Ⅱ質問（後の夢ポイント質問）を用いている。佐藤（2005）はある20代男性の脳性麻痺（混合型）による肢体不自由者の心理的世界（不安や身体イメージなど）を、適宜、夢ポイント質問・抽象性質問などを用いて吟味している。また、山根（2006）は27歳の初産婦に対して能動的夢分析を行い、名島（2006）はそれに対してコメントしている。河合（2007）は33歳の在日カナダ人男性に対して英語で能動的夢分析を行っている（伝達－警告質問・対応性質問・夢ポイント質問・抽象性質問などを使用）。さらに、岡本・石田（2012）は、能動的夢分析における介入技法の中の夢ポイント質問と抽象性質問を援用して夢の「改良版自己分析サポートシート」を作成し、その臨床的有用性を検討している。

福田（2013）は愛犬の急死で喘息発作を起こすようになった6歳女兒の喪のプロセスについて、面接と夢の聴取を行っている。福田は女兒が対象喪失から回復するまでに見た計11個の夢に対して適宜、全体感想質問、夢ポイント質問、対応性質問、抽象性質問などを行いつつ夢に聴き入り、結論として、夢を吟味することは心理的回復過程を知る手がかりとなり、喪失をめぐる心の作業プロセスの進展を支援することができると述べている。

能動的夢分析は教示や解釈による汚染を避ける夢主中心的夢分析であり、その目的は夢分析を通しての自己の拡大と能動性の獲得にある。基本的には、夢が何を夢主に要請しているのかという視点から夢をみていく。なお、能動的夢分析は内省力のないクライアントにはむずかしい。また、いろいろな質問をどのように組み合わせれば最適かという問題がある。

12. スーパーヴァイジーがスーパーヴァイザーに関して見る夢：鑑（2000）はかつてホワイト精神分析研究所での訓練中、女性の精神分析家からスーパーヴィジョンを受けた。患者は28歳の白人男性で、衝動の統制困難や一種の同一性拡散状態があった。スーパーヴィジョンでは彼女から詳細な質問（detailed inquiry）を行うよう示唆されたが鑑の中に抵抗があり（鑑としては受け身的・共感的な聴き方にこだわった）、治療は進展しなかった。そのようなときに鑑は夢を見た一水槽の中で鑑の患者ともう一人の人物が喧嘩を始めて患者が相手を刺す、そこで鑑は大急ぎで公衆電話から救急車に電話をかけるが、電話口に出たのはスーパーヴァイザーの彼女で、鑑はあっと思って目を覚ました。その後鑑はこの夢のことを彼女に話すとともにスーパーヴィジョンでの示唆をともかくしっかりと実行するようにしてみようと思ひ、そして、そうすることによって患者に大きな変化が生じた。[この夢によって鑑は自分の中にある援助欲求に気づかされたという。]

13. 夢内容：夢には数多くの夢内容があるが、ここでは青年期における「自分が死ぬ夢」を取り上げたい。一般的に言って、自分が死ぬ夢を見る大学生は同一性の混乱度が高い（辻河、

1990)。臨床的に見ても、自分が死んで抜け殻になるとか、戦争に行き撃たれて死ぬといった夢は同一性危機の反映で、生活面でもあれこれ問題が生じている（名島, 1989）。ちなみに、現実の死に直面している臨死患者では、死ぬというよりも恐怖やさみしさに襲われる夢が多い。中には、白装束の鬼婆に追いかけてまわされるといった恐怖夢を見る人もいる。

14. その他：高岸（1997）は「コンプレックスと夢」を取り上げて、夢の構成要素を刺激語とする「構成要素連想検査」を新しく作成し、この検査が夢の中に潜在化している種々のコンプレックスを抽出するのに有効であることを見出している（被検者は20代の男女4人）。

古元（2013）は臨床心理士5名で月に1回約90分のペースで計3回、Ullman（2006）の夢グループ（dream group）を行った結果、夢グループは心理療法においてセラピストがクライアントの夢を安全かつ効果的に扱うための訓練になるのではないかと述べている。ちなみに、古元（2025）は夢グループを行うさいの留意点として、夢見手は参加メンバーに対して見た夢をありのまま報告する、参加メンバーは夢見手の語ることに集中する、グループリーダーは各段階における参加メンバーの役割を明確に述べ伝えるなどを挙げている。

筒井（2015）は、村山正治のPCAGIP法を夢に適用した夢PCAGIPを試みている。これは夢提供者が自分の夢の意味を見出すことができるよう援助するグループワークである。

ジェイムス・犬塚（2022）は性犯罪者を対象とする集団精神療法の導入期に参加者が語る夢の治療的意義について、陰性治療反応との関連で吟味している。非行・犯罪領域の臨床的研究であり、大変興味深い。

IV おわりに

本稿では臨床心理学と精神医学分野の夢に関する重要事項を展望した。数多くの人々によって数多くの臨床的研究がなされていることに感激する。夢は多大な治療的価値を含み持っている。今後も新しい活用法についての研究が進んでいくことを期待したい。

[付記] 長期に亘る資料収集に関し、藤堂俊英・大石英史・辻河昌登・山本力・鈴木健一・安達圭一郎・上地雄一郎・故前田重治の各先生にお世話になりました。記して深謝いたします。

引用文献

- 吾妻壮（2015）多元的夢分析の方法に向けて 神戸女学院大学論集, 62(2), 1-14.
- 荒木佑子（1996）日本からアメリカへの環境移行が夢に与える影響 熊本大学教育学部心理学専修卒業論文
- 安克昌（1996）心の傷を癒すということ—神戸…365日 作品社
- Bromberg PM（2006）*Awakening the dreamer: Clinical journeys*. Hillsdale, New Jersey: The Analytic Press.
- 福田美智子（2014）子どものペットロスからの心理的回復過程—6歳児への面接と夢を通して— 山口大学大学院教育学研究科学校教育専攻学校臨床心理学専修修士論文
- 古元邦子（2013）Ullmanのアプローチによる夢グループの体験 広島国際大学心理臨床センター紀要, 11, 1-9.
- 古元邦子（2025）Ullmanの夢グループを施行するさいの留意点 未発表資料
- Gendlin ET（1986）*Let your body interpret your dreams*. Wilmette, Illinois: Chiron Publications.（村山正治訳, 1988, 夢とフォーカシング, 福村出版）
- Hall CS, Van de Castle RL（1966）*The content analysis of dreams*. New York: Appleton-Century-Crofts.
- 濱崎碧・山本力（2010）死別に伴う「悲嘆夢」が遺族の喪の仕事に与える影響—夢から覚醒後の諸反応の検討— 心理臨床学研究, 28(1), 50-61.
- 東山紘久（1976）臨床場面における夢の利用（Communication理論から） 大阪教育大学紀要, 第25巻, 第IV部門, 第1号, 35-44.
- 樋口勝也（2005）夢フォーカシングにおける夢のあら筋と人生の物語 追手門学院大学心理学論集, 13, 5-12.
- 広瀬隆（2006）クラシカル・ユングヤンに対する素朴な疑問—トラウマと個性化の停滞との関連から— 帝塚山学院大学人間

- 文化学部研究年報, 8, 86-98.
- 堀田洋・阿部祐太・吉住昭 (2021) EMDRが奏功した東日本大震災被災者のPTSDと複雑性悲嘆5症例の報告 九州神経精神医学, 66(3-4), 93-100.
- 池田麻衣子・大江美佐里・小城・安元眞吾・内村直尚 (2016) ト라우マ体験による悪夢に対して心理教育を行った1例 九州神経精神医学, 62(3-4), 124-130.
- 池見陽・深井良浩・岸本夏季・田中千香子・山崎星弥・國澤歩未・松下ひかり・森田志生実・東海昌樹 (2024) 夢をカラダで感じてみる—Eugene GendlinのBody Dreamwork解説— 関西大学心理臨床センター紀要, 15, 35-44.
- 石橋臥波 (1917a) 子供の夢 新女界, 9(1), 56-57.
- 石橋臥波 (1917b) 幼児の夢に就て 児童研究, 20(7), 205-209.
- ジェイムス朋子・犬塚貴浩 (2022) 集団精神療法の導入過程における夢の語りの治療的意味—性犯罪者を対象とする集団精神療法において見られた陰性治療反応プロセスの検討から 京都橋大学心理臨床センター心理相談研究, 7, 11-17.
- Jung CG (1968) *Analytical psychology: Its theory and practice. The Tavistock Lectures 1935*. London: Routledge & Kegan Paul, Ltd. (小川捷之訳, 1976, 分析心理学, みすず書房)
- 上地雄一郎 (2015) メンタライジング・アプローチ入門—愛着理論を生かす心理療法— 北大路書房
- 河合隼雄 (1967a) ユング派の分析における技法と理論 精神医学, 9(7), 24-28.
- 河合隼雄 (1967b) ユング心理学入門 培風館
- 河合隼雄 (1971) コンプレックス 岩波新書
- 河合隼雄 (1974) 夢分析による学校恐怖症高校生の治療例 京都大学教育学部心理教育相談室紀要, 1, 3-12.
- 河合隼雄 (1987) 明恵 夢を生きる 京都松柏社
- 河合隼雄・鐘幹八郎 (編) (1988) 夢の臨床 金剛出版
- 河合可南子 (2007) 能動的夢分析の試み—ある在日カナダ人男性の印象夢の分析— 山口大学心理臨床研究, 7, 23-34.
- 河合俊雄 (編著) (2013) ギーゲリッヒ 夢セミナー 創元社
- 河合俊雄 (2023) 夢とこころの古層 創元社
- 河野博臣 (1977) 生と死の心理—ユング心理学と心身症— 創元社
- 河野博臣 (1985) 死の臨床—末期患者の心理とニーズ— (馬場謙一他編, 老いと死の深層, 有斐閣, 163-189)
- 河野博臣 (1991) 死に向かって生きる こころの科学, 31, 107-112.
- Kernberg O (1974) Further contributions to the treatment of narcissistic personalities. *International Journal of Psychoanalysis*, 55, 215-240.
- 金菱清 (編) (2018) 私の夢まで、会いに来てくれた—3・11 亡き人とのそれから— 朝日新聞出版
- 衣笠隆幸 (1998) 毎日分析と夢の臨床 精神分析研究, 42(3), 276-283.
- 北見芳雄 (1957) 定型夢の研究 精神分析研究, 4(5・6), 1-12.
- 北見芳雄 (1958) 定型夢の研究 (その二) —男女大学生の夢を中心に— 精神分析研究, 5(1), 4-9.
- 北見芳雄 (1959) 定型夢の研究 (その三) 精神分析研究, 6(1), 1-7.
- 北見芳雄・佐藤紀子 (1969) 定型夢の研究—成人女子の夢を中心に— 精神分析研究, 15(4), 3.
- 近藤隆夫 (2002) 観護措置中の非行少年に対する夢分析の活用について—司法制度改革時代の新たな調査技法のひとつとして— 全国家庭裁判所調査官研究協議会発行 家裁調査官研究展望, 31, 76-86.
- 近藤敏行 (1994) 夢曼荼羅 非売品
- Konakawa H (2016) Attempt at comparison of Japanese and Western dreams using Structural Dream Analysis. *Archives of Sandplay Therapy*, 29(1), 83-100.
- 小沼十寸穂 (1993) 夢記と個性—老精神医学者の自家夢記から— 広島大学医学雑誌, 41(4), 215-241.
- 小沼十寸穂 (1995) 夢記と個性<補遺編>—老精神医学者の自家夢記から— 広島大学医学雑誌, 43(4), 189-197.
- 古澤平作 (1929) エディプス複合体ヲ内容トスル定型夢ヲ最後として治癒セル強迫観念性神経症ノ分析例 精神神経学雑誌, 29(3), 263-264.

- 小寺隆史 (1999) 妄想型分裂病女性の精神療法と夢分析の過程—母系制の心理の視点より— 精神療法, 25(1), 41-48.
- 倉戸ヨシヤ (1977) ゲシュタルト療法におけるDream Workについて 甲南大学紀要, 文学編, 28, 30-55.
- 前田重治 (1956) 神経症者の夢に関する二、三の見解 臨床と研究, 33(12), 50-55.
- 正木ひろし (1974) 夢日記 大陸書房
- 的場みぎわ (1998) 妊娠・出産・育児過程における女性の夢の研究 箱庭療法学研究, 11(2), 85-92.
- 松田英子・春日喬 (1998) 夢を媒介とする認知療法の試み カウンセリング研究, 21, 74-83.
- 松田英子 (2006) 夢想起メカニズムと臨床的応用 風間書房
- 松田英子・松岡和生・岡田斉 (2021) 自閉症スペクトラム障害の特性と夢の感覚および感情に関する予備的研究 イメージ心理学研究, 19, 1-9.
- 松田英子・川瀬洋子 (2023) 悪夢を主訴とする高校生へのイメージエクスポージャーとイメージリスクリプトの適応 カウンセリング研究, 26(2), 69-78.
- 松木邦裕・藤山直樹 (2015) 夢、夢見ること 創元社
- 松本京介 (2025) 夢を通じた喪の仕事と関係性の再構築 心理臨床学研究, 43(3), 232-243.
- Maybruck P (1989) *Pregnancy and dreams: How to have a peaceful pregnancy by understanding your dreams, fantasies, daydreams and nightmares*. Los Angeles: Jeremy P. Tarcher, Inc.
- 三村成美 (1997) クライアントに関してセラピストが見る夢の意義 熊本大学大学院教育学研究科平成8年度修士論文
- 皆川英明 (2014) 「夢を報告すること」の機能について—病理的対象関係の再演に関する一考察— 精神分析研究, 58(1), 1-10.
- 三坂友子・村山正治 (1993) 「謎の主題役」に注目した夢focusingの手法とその有効性に関する考察 九州大学教育学部紀要, 38(2), 103-112.
- 三好郁男 (1970) 症例ドラ—2つの夢の現存在的解釈— 精神分析研究, 16(1), 5-8.
- 名島潤慈 (1978) 逆転移の吟味過程における夢の意義—ある自殺未遂者（自己愛的人格）との心理療法中に治療者が見た夢を通して— 広島大学教育学部紀要, 第1部, 27, 147-160.
- 名島潤慈 (1989) 夢の中の死—青年期の同一性危機事例の検討 熊本大学教育学部紀要, 38, 人文科学, 251-256.
- 名島潤慈 (1991) ユングとフロイトにおける夢解釈の比較検討 熊本大学教育学部紀要, 40, 人文科学, 325-336.
- 名島潤慈 (1998) 夢分析における潜在感情質問の意義 熊本大学教育学部紀要, 47, 人文科学, 295-302.
- 名島潤慈 (2003a) 臨床場面における夢の利用—能動的夢分析— 誠信書房
- 名島潤慈 (2003b) 能動的な心理療法における夢の利用 山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要, 15, 197-212.
- 名島潤慈 (2006) 能動的夢分析と夢の機能について—山根論文「妊娠・子育て期における夢の機能」についてのコメント— 山口大学心理臨床研究, 6, 42-48.
- 名島潤慈 (2008) 夢のなかに表れる感情の分類 山口大学心理臨床研究, 8, 3-12.
- 名島潤慈 (2010) ある自閉症者の夢—Donna Williamsの見た子猫の夢の検討— 山口大学教育学部研究論叢, 59, 第3部, 253-260.
- 名島潤慈 (2012) 能動的夢分析概説 山口大学大学院教育学研究科附属臨床心理センター紀要, 3, 29-41.
- 名島潤慈 (2016) 高機能自閉症者Donna Williamsの幻視・白日夢・夢における超自然的特性の吟味 山口学芸研究, 7, 55-66.
- 名島潤慈 (2019) 自閉スペクトラム症者Temple Grandinの白日夢、締めつけ機と夢の検討 山口学芸研究, 10, 53-66.
- 名島潤慈 (2020) 自閉スペクトラム症者Temple Grandinが見たスィフト食肉加工工場に関する2つの夢の分析 山口学芸研究, 11, 69-78.
- Najima J (2023) Some further thoughts on Active Dream Analysis. *Yamaguchi Gakugei Bulletin of Educational Science*, 14, 39-45.
- 名島潤慈 (2025) 日本における夢研究の展望—夢に関する博士論文を中心に— 山口学芸研究, 16, 58-70.
- 中井久夫 (1974) 精神分裂病状態からの寛解過程—描画を併用せる精神療法をとしてみた縦断的観察— (宮本忠雄編, 分裂病の精神病理, 157-217)
- 中井久夫 (1998) 最終講義—分裂病私見— みすず書房

- 西村洲衛男 (1969) 箱庭と夢分析による学校恐怖症Mの治療過程 日本臨床心理学会第5回大会発表論文集, 103.
- 織田尚生 (1973) REM期覚醒法による精神分裂病者の夢に関する研究 精神医学雑誌, 75(12), 1037-1060.
- 織田尚生 (1977) 分裂した自己像の統合過程の進展と女性性の獲得—夢分析による境界例にたいする治療から— (河合隼雄・佐治守夫・成瀬悟策編, 臨床心理ケース研究1, 誠信書房, 23-38)
- 小川捷之 (1972) 夢について面接を進めていった大学生 (田中熊次郎編著, 教育相談臨床事例集Ⅱ, 明治図書, 207-224)
- 岡田暁宜 (2016) 残滓としての夢—自閉スペクトラムの夢臨床— 日本精神分析学会第62回大会抄録集, 1-3.
- 岡田斉 (2001) 夢想起における感情別体験頻度 文教大学人間科学部 人間科学研究, 23, 45-54.
- 岡野泰子 (2025) 週1回精神分析的サイコセラピーにおける夢の取り扱い 精神分析研究, 69(4), 494-502.
- 岡本和典・石田弓 (2012) 「夢の自己分析サポートシート」の臨床的有用性の検討 広島大学心理学研究, 12, 249-262.
- 大江美佐里・内村尚 (2014) 心的外傷後ストレス障害の悪夢に対するイメージを利用した治療—展望と今後の課題— 九州神経精神医学, 60(2), 92-96.
- 大前玲子 (2005) 「認知療法と夢」についての文献展望 心理臨床学研究, 22(6), 665-670.
- Perls FS (1969) *Gestalt therapy verbatim*. Lafayette, CA: Real People Press. (倉戸ヨシヤ監訳, 1990, ゲシュタルト療法パーベイティム, ナカニシヤ出版)
- 佐藤直弘 (2005) 夢分析を通してみた肢体不自由者の心理 山口大学教育学部実践臨床教育課程教育心理学コース卒論
- 島尾敏雄 (1948) 夢の中での日常 総合文化, 5月号. (島尾敏雄, 1956, 夢の中での日常, 現代社, 31-53)
- 島尾敏雄 (1973) 記夢志 冥草社
- 島尾敏雄 (1978) 夢日記 河出書房新社
- 清水亜紀子他 (2024) 悲嘆夢を語ることの臨床的意義と可能性について—悲嘆夢の活用を通して、一人ひとりの心に寄り添う遺族ケアを目指して— 日本心理臨床学会第43回大会発表論文集, 26.
- 新宮一成 (1984) 精神療法の経過中に出現する妊娠と赤ん坊の夢心像について—転移における幻想の構造に関する一試論— 季刊 精神療法, 10(2), 52-61.
- 新宮一成 (1988) 夢と構造—フロイトからラカンへの隠された道— 弘文堂
- Sjöström N, Wærn M, Hetta J (2007) Nightmares and sleep disturbances in relation to suicidality in suicide attempters. *Sleep*, 30(1), 91-95.
- Sjöström N, Hetta J, Wærn M (2009) Persistent nightmares are associated with repeat suicide: A prospective study. *Psychiatric Research*, 170(2-3), 208-211.
- Sullivan HS (1954) *The psychiatric interview*. New York: W. W. Norton & Company Inc. (中井久夫・秋山剛・野口昌也・松川周悟・宮崎隆吉・山口直彦訳, 1986, 精神医学的面接, みすず書房)
- 角南譲 (1969) 慢性分裂病者の夢の精神生理学的研究 精神神経学雑誌, 71, 980-997.
- 鈴木健一 (2014) 学生相談における夢の臨床的利用による現実検討能力の育み 学生相談研究, 35(2), 107-117.
- 鈴木謙次 (1958) 発声困難症Dysphoniaの患者の精神分析学的研究 (その一) 精神分析治療中の夢の研究 [1]—その技法的考察 精神分析研究, 5(2), 3-10.
- 鈴木智美 (2012) 逆転移夢—その治療的活用— 精神分析研究, 56(3), 305-313.
- 田畑治 (1977) 来談者中心療法における夢の一考察 名古屋大学教育学部紀要, 教育心理学科, 24, 107-128.
- 田畑治 (1983) 心理治療過程に現れた治療者像とその機能 (I) —ある重症対人恐怖症者の夢分析を通して— 名古屋大学教育学部紀要, 教育心理学科, 30, 99-119.
- 田畑治 (1984) 心理治療過程に現れた治療者像とその機能 (II) —母性喪失体験を持つ男性・女性クライアントの夢分析を通して— 名古屋大学教育学部紀要, 教育心理学科, 31, 1-23.
- 高石恭子 (1996) 阪神・淡路大震災後に学生が見た夢と心の健康について 甲南大学学生相談室紀要, 4, 30-41.
- 高岸幸弘 (1997) コンプレックスと夢 平成8年度熊本大学教育学部心理学科卒業論文
- 高森淳一 (2009) 悲嘆夢からみた喪の作業—現代の夢理論から— 天理大学学报, 60(1), 19-78.
- 武内珠美 (1984) 妊産婦に関する夢の研究 広島大学大学院教育学研究科博士課程論文集, 10, 139-145.

- 田村隆一 (2002) 夢フォーカシングとシフトの質的差異—最も古い夢フォーカシングの事例からの考察— (村山正治・藤中隆久編, クライアント中心療法と体験過程療法—私と実践との対話—, ナカニシヤ出版, 187-201)
- 鐘幹八郎 (1968) 夢の臨床的利用に関する考察 (第1報)—夢の形成作業に関する精神分析的仮説の検討— 大阪教育大学紀要, 第17巻, 第IV部門, 155-161.
- 鐘幹八郎 (1970) 心理療法における夢分析の機能—夢の臨床的利用に関する研究 (第2報)— 大阪教育大学紀要, 第19巻, 第IV部門, 147-154.
- 鐘幹八郎 (1976) 夢分析入門 創元社
- 鐘幹八郎 (1979a) 夢分析の実際—心の世界の探求— 創元社
- 鐘幹八郎 (1979b) 夢で自己分析してみよう—あなたの知らない自分、危機の前兆を示す夢の見方、読み方— 日新報道
- 鐘幹八郎 (1998) 夢分析と心理療法—臨床で夢をどう生かすか— 創元社
- 鐘幹八郎 (2000) スーパーヴィジョンの役割と諸問題—外国体験と日本の臨床— 精神分析研究, 44(3), 258-265.
- Tauber ES (1954) Exploring the therapeutic use of countertransference. *Psychiatry*, 17(4), 331-336.
- 藤堂俊英 (2003) 夢中体験と夢の考察—特に夢中相承をめぐって— 浄土宗学研究, 29, 1-28.
- つげ義春 (1977) 夢日記 月刊ポエム, 1月号. (つげ義春, 1977, つげ義春とほく, 晶文社, 73-125)
- 辻河昌登 (1990) 大学生の夢主題に関する研究 中国四国心理学会論文集, 23, 80.
- 津島佑子 (1986) 夜の光に追われて 講談社
- 津島佑子 (1988) 夢の記録 文藝春秋
- 筒井優介 (2015) 夢PCAGIPの試み 関西大学臨床心理専門職大学院紀要, 5, 73-81.
- 上野陽一 (1914a) フロイドの夢の説 (上) 心理研究, 33, 226-244.
- 上野陽一 (1914b) フロイドの夢の説 (下) 心理研究, 34, 378-395.
- Ullman M (2006) *Appreciating dreams: A group approach*. New York: Cosimo On-Demand.
- 梅村高太郎 (2008) 配偶者との死別に伴う夢—“つながり”と“へだたり”の弁証法— 箱庭療法学研究, 21(2), 103-112.
- 山本力 (2007) 喪失と悲嘆に関する鍵概念—キーワード32の定義の試み— 岡山大学教育学部附属教育実践総合センター心理教育相談室紀要 心理と教育臨床の実践研究, 5, 1-8.
- 山本力 (2025) 悲しみといのちの時熟—続・喪失と悲嘆の心理臨床学— 誠信書房
- 山本力・岡田碧 (2013) 死別に伴う「悲嘆夢」の内容と機能—切る機能と結ぶ機能の振り子過程— 岡山大学大学院教育学研究科研究集録, 153, 1-9.
- 山根望 (2006) 妊娠・子育て期における夢の機能—ある初産婦の能動的夢分析から— 山口大学心理臨床研究, 6, 30-41.
- 山根望・名島潤慈 (2009) 妊娠期における夢の中の感情—5人の初産婦の夢分析から— 山口大学教育学部研究論叢, 59, 第3部, 269-276.
- 横尾忠則 (1979) 私の夢日記 角川書店
- 吉岡佑衣 (2023) 大学生の過剰適応傾向と夢の中の感情の関連性 心理臨床学研究, 41(4), 362-372.
- 吉岡佑衣 (2025) 夢が持つ機能についてのスコーピングレビュー 京都大学大学院教育学研究科紀要, 71, 141-154.
- 渡辺恒夫 (2018) 他者になる夢の現象学的解明—フッサール志向性論に基づく主題分析— 質的心理学研究, 17, 66-86.
- 渡辺雄三 (2002) 夢の物語と心理療法 岩波書店
- Wray TJ, Price AB (2005) *Grief dreams: How they help heal us after the death of a loved one*. San Francisco, CA: Jossey-Bass.